

氏 名	近藤 秀則
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6761 号
学位授与の日付	2023 年 3 月 24 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 機能再生・再建科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Fracture Line Distribution of Undisplaced Distal Radius Fractures in Relation to Rupture of the Extensor Pollicis Longus Tendon (長母指伸筋腱断裂をきたした非転位型橈骨遠位端骨折の骨折線の分布)
論文審査委員	教授 川口綾乃 教授 木股敬裕 准教授 内藤宏道

学位論文内容の要旨

橈骨遠位端骨折(DRF)の重篤な合併症の 1 つとして長母指伸筋腱(EPL)断裂がある。EPL 断裂は転位がない症例に多いとされているが、骨折線との詳細な関連を示す報告はない。そこで、EPL 断裂のリスクとなる骨折型を明らかにすることを目的とし、非転位型 DRF 保存治療例に合併した EPL 断裂 18 例に対して 3DCT を用いた骨折線マッピングを行い、非 EPL 断裂 52 例と比較した。年齢、性別、受傷側、OTA/AO 分類において 2 群間に有意な差はなかった。EPL 断裂群では、全例リスター結節の近位に骨折線を認めたが、非 EPL 断裂群では骨折線は分散していた。EPL はリスター結節の尺側に位置し、橈骨と伸筋支帶で覆われる背側第 3 伸筋区画内を単独で走行する特徴を持つ。非転位型 DRF では伸筋支帶は破綻せず、骨折に伴う血腫や浮腫などにより、区画内圧の上昇や腱への血流低下をきたす。非転位型 DRF におけるリスター結節の近位の骨折は、EPL 断裂のリスク因子となる可能性が示唆された。

論文審査結果の要旨

橈骨遠位端骨折は脆弱性骨折の中でも比較的頻度の高い骨折であり、今後の超高齢化社会にむけてその発症数増加が予想されている。本研究では、非転位型橈骨遠位端骨折の合併症としての長母指伸筋腱 (EPL) 断裂について、そのリスクとなる骨折型を明らかにするため、3D-CT に基づいた骨折線マッピングを行った。EPL 断裂症例と非 EPL 断裂症例を比較し解析を行った結果、非転位型橈骨遠位端骨折におけるリスター結節近位の骨折が EPL 断裂のリスク因子となる可能性が示唆された。

委員からは、症例数の蓄積と統計的手法を用いた解析の必要性など今後の研究展開へ向けた助言があった。

本研究は3D-CTによる骨折線マッピングに基づき非転位型橈骨遠位端骨折におけるEPL断裂の合併症の有無を検討した点で新規性があり、橈骨遠位端骨折の治療方針決定に寄与する重要な知見を得たものとして価値ある業績と認められる。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。